

# 小さな自然再生を活用した 多自然川づくり研修の取り組みについて

秋田県 建設部 河川砂防課 砂防・防災班 主査 芳賀 豊明

## 1. はじめに

本県の災害復旧工事の現状として、護岸の復旧工法は、コンクリートブロックが主流となっており、復旧工事により河岸植生の消失や、環境・景観面での多様性が失われている状況でした。この状況は、多自然川づくりに対する職員の意識の低さが一つの要因と考え、県・市町村職員及び工事施工関係者の意識向上を目的として「多自然川づくり研修」を実施しましたので、本紙面をお借りして紹介いたします。

## 2. 多自然川づくりに関する課題

計画時の課題として、早期復旧の時間的制約から、復旧対象河川の特性を十分踏まえた川づくりの基本方針を持たないまま、これまでの前例踏襲的な工事計画が行われていました。

また、工事施工時の課題としては、発注側の担当者のみならず、工事施工者側においても多自然川づくりに対する意識が低いため、直線的なコンクリートブロック護岸の施工や、瀬・淵、滯筋等の保全などの景観・環境への配慮に欠ける事例が多く確認されていました。

## 3. 改善の検討

これらの課題について少しでも改善に繋がる方策を検討した結果、多自然川づくりへの関心を高めてもらえるよう研修を実施することとし、その手法として、小規模で短期間に低コストで完成できる「小さな自然再生」研究会の取り組みを知り、この活動を活用した研修を計画しました。

現地での研修は以下の3点に留意しました。

- ① 多自然川づくりへの効果が短期間で発現
- ② 小規模かつ安価で容易に作業ができること
- ③ 設置した施設等が容易に手直しできること

## 4. 研修会の実施

県・市町村の土木職員による研修会を平成28年度より実施しています。

研修内容は以下のとおりです。

### ○平成28年度 研修会 (H28.10)

研修では、「多自然川づくりの基本知識の習得」を目的に実施しました。

具体的内容としては、中小河川における多自然川

づくりのあり方や河道特性の見極め方、自然再生のための環境設計の考え方のほか、自然環境の復元について容易に施工できる自然再生工法等について研修を行いました。また、従前の河川が保有していた瀬や淵などの河川環境の復元を図るため、小規模なバープ工の試験施工を実施し、同時に魚類・底生動物の調査も行いました。



～小規模バープの試験施工状況～

### ○平成29年度 研修会 (H30.2)

(主催：「小さな自然再生」研究会)

研修では、「自然再生についての考え方等についての知識の習得」を目的に実施しました。

研修の具体的内容としては、中小河川における河川生態系の仕組みや小さな自然再生の留意点について研修を行いました。また、ワークショップによりグループ討議を実施し、河川工事により瀬や淵が



～グループ討議～

消失したモデル河川を対象に、河川環境の回復、親水性に富んだ場となるような川づくりのあり方などについて研修を行いました。

#### ○平成30年度 研修会 (H30.10)

研修では、「事例を用いて自然再生の考え方や留意点についての知識の習得」を図りました。

具体的内容としては、瀬・淵を通して成り立つ生態系の仕組みや他県での事例を用いた研修を行い



～座学実施状況～



～バープ工試験施工～



～バープ工設置後（下流から上流を望む）～

ました。そして、河川環境等の回復、親水性に富んだ場となるような川づくりとして、左右岸2班に分かれてバープ工の試験施工を行いました。

#### ○令和2年度 研修会 (R2.11)

(主催：「小さな自然再生」研究会)

研修では、平成30年度に設置したバープ工について、設置から2年後のバープ周辺の河道内地形変化や物理環境のモニタリングについて座学を実施し、現地では生物及び河道内地形の簡易調査等を実施しました。

バープ工周辺では2年経過により、瀬や淵などの多様な地形変化が確認され、生物モニタリングにおいても多種多様な生物が生息しており、順調な河川環境の回復状況が確認できました。



～バープ工周辺調査状況～

#### 5. おわりに

本研修は今後も継続的な開催を予定しており、多自然川づくり未経験者など新たな人材を取り込みながら、河川景観等に対する職員意識の向上を図りたいと考えております。

研修会開催にあたり、日本河川・流域ネットワーク及び「小さな自然再生」研究会には多大なご協力を頂き、本紙面をお借りしてお礼申し上げます。



～現在のバープ工（令和3年4月撮影）～